

平成2年度卒業論文題目一覧

- 青木 芳佳 ヘルマン・ヘッセ『荒野のおおかみ』における真の人間性
——狼からフモールへ——
- 阿部真由美 日独文化交流について——ドイツにおける『忠臣蔵』の上
演を通して
- 荒井 由紀 テオドール・シュトルムの『三色すみれ』について
池内希久子 H. v. Kleist の『チリの地震』——イェロニモとヨゼーフエ
は何故翻弄されねばならなかったか——
- 石丸 秀典 戦争文学について——レマルクの『西部戦線異状なし』を
中心とした比較から——
- 植木 千穂 ハイน์リヒ・フォン・クライストの『チリの地震』につい
て——特徴と真理を中心に——
- 宇田 美保 トーマス・マンの『魔の山』 („Der Zauberberg“) につ
いて
- 大浦 千鶴 カフカの『変身』『城』について——物語技法を中心に——
大堀真理子 トーマス・マンの芸術家 自己再生への道とイロニーにつ
いて
- 岡田 紀子 言語理解とコミュニケーション能力養成のための外国語教
授法
- 岡本 美香 C. F. Meyer の抒情詩にみられる「死」——水と係わる
詩を手がかりに——
- 小川 順子 フランツ・カフカの『変身』について
小野田聡子 カフカの真実——現実と非現実の共存——
甲斐 聡美 カフカの動物文学における存在の問題について——『巢
穴』を中心に——
- 木水 智美 言語理解, 言語運用能力養成のためのテキスト構成につい
て
- 木村 武裕 フランツ・カフカの『変身』について
久保 信哉 民謡と民謡調歌曲

- 桑原 衣代 ヘルマン・ヘッセの自己実現への道——ユングとの関係において——
- 源石美代子 「グリムの童話」の魅力
- 小林 紀子 ゲーテの『ファウスト』のグレートヒェンについて
- 小林 豊 ゲットーとユダヤ人の生活
- 近藤 明子 „Kinder- und Hausmärchen“ のまま母話について——ま
ま母のまま子に対する役割——
- 酒井 敏美 演劇作品と時代背景との関係について——„Taifun“ の内
容の変遷を通して——
- 酒井 直子 H. v. Kleist: „Das Erdbeben in Chili“ の森鷗外訳によ
る比較文学的考察
- 酒向さつき H. v. クライストの『チリの地震』について
- 杉原 陽子 ドイツの韻律論について——C. F. Meyer の詩の韻律論的
解釈を中心に——
- 田中 誠志 接続法について——歴史的観点からの考察——
- 田中 裕子 テオドール・シュトルムの『みずうみ』について
- 谷 秀人 『バッヘラッハのラビ』とハイネのユダヤ主義との関係に
ついて
- 田村美智代 ヘルマン・ハッセの『荒野の狼』について——自我の分裂
の危機の克服——
- 千星 慶一 シラーの『メッシーナの花嫁』とソポクレスの『オイディ
プス王』
- 津村 公子 C. F. Meyer の詩 „Liederseelen“ について
- 寺山 雅美 Hermann Hesse, „Roßhalde“ における芸術家の市民生活
について
- 徳永 知並 グリム童話の心理学的考察
- 富田 美佳 Theodor Storm の『三色すみれ』について
- 富田 陽子 Heinrich von Kleist, „Das Erdbeben in Chili“
二つの頂点とその悲劇性について
- 中村 紘子 テオドール・シュトルムの『水に沈む』について
- 長尾 真理 Funktional-Notional シラバスに基づく教材について

- 西浦 隆美 アンナ・ゼーガースの『第七の十字架』について
- 西村 隆文 ゲーテの『ノヴェレ』 („Novelle“) について
- 浜本 達也 レンツの『軍人たち』における社会批判
- 原 綾子 ミヒャエル・エンデの作品にみる大人と子供の共有世界
——『ジム・ボタン』を軸に——
- 福村 修一 H. ヘッセ『青春は美わし』——苦悩に満ちた青春の考察
- 藤井 直 低地ドイツ語について
- 藤田 奈々 『モモ』にみるエンデの精神世界認識——シュタイナーと
の関連に注目して——
- 松下 記子 ゲーテの叙事詩『ヘルマンとドロテア』 („Hermann und
Dorothea“) について
- 松原 裕治 フランツ・カフカの『変身』と安部公房の比較研究
- 松山 晶子 Franz Grillparzer の三部劇 „Das goldene Vließ“ にお
けるメディア像と悲劇性について
- 水口由理子 E. T. A. ホフマンの『黄金の壺』について
- 皆吉 和彦 ゲオルク・ビュヒナーその生涯と『ダントンの死』
- 村田 純子 グリム童話の魅力——ペロー童話との比較から——
- 彌永 貴之 トーマス・マンにおける『マーリオと魔術師』の位置と意
味について
- 山本 良香 カフカの世界の「死」
- 横田 英哲 グリムの Volksmärchen に関する若干の考察
- 吉見 昌貢 Schwa 母音 [ə] への弱化とその脱落——文音声学的現象
の伝達観点を中心とした考察——
- 米元 晴子 Joseph von Eichendorff, „Das Schloß Dürande“ につ
いて
- 渡邊 敬介 Wien・Rothschild 家 (Metternich との関係)
- 久保 哲 『車輪の下』について

関西大学独逸文学会 行事記録

(平成2年4月～3年3月)

○平成2年7月15日 平成2年度総会および第69回研究発表会

総会議事

- 1) 会長挨拶……………山下 肇氏
- 2) 編集報告……………諸沢 巖氏
- 3) 会計報告……………武市 修氏

帰朝報告

「外国語としてのドイツ語」の教育目標の多様化の可能性
——1989年ミュンヘンでのパイロット・プロジェクトに
参加して——……………杉谷真佐子氏

研究発表

- 1) フランツ・カフカの『変身』について
——グレゴールの共同体への憧憬——……………奥田 誠司氏
- 2) 「読書協会」・「秘密結社」とドイツ・ジャコバン派
……………浜本 隆志氏
出席者 33名

○平成2年9月5日 西独・中国ゲルマニスト講演会

講演

- 1) Das Deutschlandbild in der chinesischen Literatur
des 20. Jahrhunderts ……………Prof. Dr. Zhiying Yuan
(袁 志英) (復旦大学)
- 2) Tendenzen deutscher Literatur in Ost und West
nach dem Zweiten Weltkrieg …Prof. Dr. Wilhelm Voßkamp
(Universität Köln)
出席者 25名

○平成2年12月18日 講演会

講演

Weiss's *Marat / Sade* Play & its 3 Main Performance

Versions—West Berlin, London-New York, Rostock

DDR—.....Prof. Dr. Darko Suvin

(モントリオール McGill 大学演劇学教授)

出席者 28名

○平成2年12月22日 第70回研究発表会

研究発表

1) ゲーテの『パンドーラ』.....藤沢ゆうり氏

2) 私の時代・私の仕事.....山下 肇氏

出席者 30名

「独逸文学」36号執筆申し込み要領

1. 申し込み方法

執筆希望者は、平成3年8月30日までに編集委員会に申し出ること。論文の場合はその要旨（レポート用紙1枚以内、横書）を、論文題目、口頭発表の有無および日本文・ドイツ文の別を記したものと同時に、書評・紹介はその題目と簡単な内容説明を付記して、平成3年9月30日までに編集委員会に送付のこと。

2. 原稿について

i) 日本文の場合、論文は本文・注を合計し、400字詰横書原稿用紙**40枚**、別に500語程度のドイツ文のレジюмеを添えること。書評・紹介は同上用紙**20枚**、レジюмеは不要。

ii) ドイツ文の場合、本文・注を合計し、**5000語**（タイプ印書）程度、レジюмеは不要。

いずれも**完全原稿**を平成3年11月30日までに、編集委員会に送付。その際、題目と氏名を日本文・ドイツ文で別紙に、記したものを添えること。

執筆申し込み、論文要旨、原稿送付とも**締切り日厳守**のこと。なお、執筆申し込みの際、「独逸文学」執筆要領を請求の上、これにしたがって**完全原稿**を提出のこと。

掲載紙面の都合上、投稿原稿の採用の有無については編集委員会へ一任のこと。